

## 1 学校教育目標

◇教育目標

**次の10年へ 率先垂範・新たな挑戦****～積極的な思考力・行動力を持つ人材の育成～**

- 1 心豊かで、礼節を身に付け、志高く自主自律の精神で活力に溢れ、国際化が進む社会に貢献できる有為な人材を育成する。
- 2 進路実現に向けて自分の可能性に挑戦し、自己実現を図る人材を育成する。
- 3 ものづくり教育の充実や学校行事、部活動の活性化を図るとともに、将来において心身ともに健康で、社会人・職業人として自立し共生する人材を育成する。

## 2 本年度の重点目標

平成31年度(2019年度)県立学校における教育指導の重点のもと「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を根幹に、学育、心育、体育を基本とし、「敬愛・努力・感動」を合言葉に、各項目を本年度の具体的取組とする。

## 1 基礎・基本の充実・定着

- ・自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決していく資質や能力、すなわち「生きる力」の育成に努める。
- ・分かる授業、生徒が意欲的に取り組む授業のための指導方法・教材等の工夫・改善に努める。
- ・朝読書をとおして、知性や感性を豊かにするとともに、集中力を高め、落ち着いた学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。

## 2 工業教育の充実

- ・専門高校の特色を生かした資格取得を奨励し、計画的な指導の実施及び産業界に貢献できる人材の育成に努める。
- ・ものづくり教育をとおして、困難な課題や問題に果敢に挑み、自らその解決に試行錯誤を繰り返して努力し、乗り越えていくことで、自立心や創造力を培うことができる人づくり教育に努める。
- ・SPH(スーパープロフェッショナルハイスクール)の取組において、産学官との連携・協働による災害に強い人材循環型学校・まちづくりを推進できるエンジニアの育成を目指す。

## 3 基礎的生活習慣の確立

- ・5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進し、落ち着いて学業に専念できる環境の整備に努める。
- ・規範意識を向上させ、社会人として自立し、共生する人格の育成に努める。
- ・2A運動の徹底に努める。
- 「当(A)たり前のことを、当(A)たり前に」「安(A)全で、愛(A)校心を育む環境に」

## 4 キャリア教育の振興・推進

- ・キャリア教育を意識した進路指導の充実と進路保障に努める。
- ・進学・公務員及び企業への進路保障に必要な組織的な受験対策と、その支援に努める。
- ・勤労体験や奉仕活動をとおして、職業観や奉仕の精神の育成に努めるとともに、コミュニケーション能力を身に付けた生徒の育成に努める。

## 5 部活動の活性化

- ・スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に努める。
- ・文化部及び体育部活動の活性化により、健全で充実した学校生活の支援に努める。
- ・文武両道を推進し、知(確かな学力)、徳(豊かな心)、体(健康な体)のバランスの取れた生きる力を育む。
- ・それぞれの個性・能力を持った生徒が目標達成のために団結し、心を一つにして挑戦するなかで、充実感・達成感を味わい、体力はもとより忍耐力・精神力を養う。

## 6 人権教育の推進

- ・人権尊重の精神のもと、全教育活動をとおして「心に届き」「心を揺り動かし」「心を豊かに」する心の教育に努める。
- ・教育の根幹に人権教育を捉え、生徒にしっかり寄り添い、生徒一人一人を大切にした教育に努める。
- ・思いやりの心を育て、挨拶を交わし、明るく活気のある学校づくりに努める。

7 グローバル化に対応した教育の推進

- ・英語教育の充実をはじめ、国際理解教育や国際的な職業への関心を喚起する取組を推進し、国際的な産業競争力の向上や国際間のきずなの強化等のグローバルな舞台で積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図る。
- ・郷土に誇りを持ち、自然や文化・伝統を大切にすることを育み、グローバル社会に対応できる技術革新、情報収集できる能力の育成に努める。
- ・朝の英会話放送をとおして、英語の聴解力や読解力を高めるとともに、集中力を高め、落ち着いた学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の経営方針の徹底	・教育目標・教育方針を周知徹底した結果の生徒や保護者の理解度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートで学校目標の理解を100%に近づける。</li> <li>・保護者アンケートで学校目標の理解90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の重点目標を職員会議で明示し徹底</li> <li>・朝礼及び育成面談などを利用して、機会ある毎に重点目標を徹底</li> <li>・主任主事を通じて全職員に徹底</li> <li>・保護者会や学年保護者会等を利用して周知</li> <li>・保護者会新聞「清流」やホームページ活用での周知</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートでは、学校経営方針が職員に周知されていると考える職員が93.9%で、高いレベルであるが、昨年度より2.4%低下した。学校組織が大きいため、職員の意思統一が難しい場面が見られた。色々な機会を捉えて学校経営方針等を伝え、全職員が同じ方向を向いて、学校としての取組を進める必要がある。</li> <li>・学校目標の周知は、保護者アンケートでみる80.9%と昨年度より3.7%低下しており、目標の90%には届いていない。更なる周知に努める必要がある。</li> <li>・今年も清流は年2回発行し、ホームページは学校の様子なども掲載し、毎日更新している。</li> </ul>
	保護者との連携	・保護者会役員との連携及び保護者会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会役員会の開催年間10回以上及び活性化</li> <li>・様々な保護者会活動への職員の協力及びPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者役員会を定例化し、学校と保護者の連携を強化するとともに、併せて出席についても働きかけを依頼</li> <li>・保護者会年次総会時に年間の行事予定表を配布すると共に、学校のホームページ等を利用した日頃の活動の紹介</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月定例役員会を実施し、前月の反省と次月の取組の確認と報告を役員会で行った。各々の委員会や科でもネットワークを通じて保護者会として組織的に活動できた。成果としては、実習棟改築工事で様々な制限が続いているが、保護者会バザー等の全保護者を対象とした活動も積極的に参加されていた。保護者年次総会の出席率については、工事の関係で駐車場が確保できず約63%の出席率となった。</li> </ul>
	目標の達成に向けての取組	・各部各科の取組と本目標達成との整合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に本評価で、B評価以上が80%以上</li> <li>・工業科主任連絡会の月2回の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任・主事との報告・連絡・相談を密にして取組の現状と課題を把握</li> <li>・工業科主任連絡会において、各科の取組や情報を共有し広い視野を持って業務に当たる。</li> <li>・適切な指導助言により管理職と職員が一体感を持ちながら取り組み、組織的な校務運営による目標達成</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本評価におけるB評価以上の割合は94.1%で、昨年度の91.2%より向上した。昨年度より向上した項目もあったが、低くなった項目も同程度あり、次年度へ向けて課題も残った。</li> <li>・本年度は12月に年度末反省会を全職員で行い、課題を整理して、運営委員会や工業科主任連絡会で検討した。課題解決へ向けて、日課の見直し等を進めることができた。</li> </ul>

学力 向上	計画的な 学習指導 の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な学習指導と適正な評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間をととした計画的な授業及び基礎学力定着と技能の習得</li> <li>課題解決のための「思考力・判断力・表現力等」の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初におけるシラバス作成及び、最初の授業での周知。</li> <li>授業中の活動やレポート・作品・発表等、生徒の評価方法の工夫・改善</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価方法に関しては、外部講師による職員研修を実施し、研究授業等をととして工夫・改善に取り組んでいる。</li> <li>SPH事業における評価方法の工夫・改善の取り組みが、他教科にも徐々に広まりを見せつつある。</li> </ul>
	授業内容 の工夫・ 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かる授業の実践</li> <li>興味関心意欲を向上させる授業の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価「とても分かり易い」60%以上</li> <li>授業評価「授業により学習への興味関心意欲が向上」50%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT環境の拡充</li> <li>授業改善職員研修の実施</li> <li>研究授業・公開授業の更なる活性化</li> <li>授業アンケートによる生徒の実態把握</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習評価の改善及びICT活用に関する外部講師による職員研修を実施。</li> <li>第2回授業評価における「とても分かり易い」の項目は47.5%であり、昨年度の49.4%から1.9p減少した。</li> <li>「授業により学習への興味関心意欲が向上」の項目は34.2%で昨年度から2.7p減少した。</li> <li>その他の項目においても、昨年度から減少した項目が目立った。第1回の授業評価がそれぞれ51.7%及び38.0%と大きく伸びを見せた分期待できたものの、年度をととした結果としては課題が残る。今後も継続した研鑽が必要である。</li> <li>公開授業の参観者数は58人。昨年度の68人から減少した。</li> </ul>
	基礎学力 の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的かつ意欲的に取り組む姿勢</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期末における欠点保持者数を昨年度比減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査、各種テストに向けた事前・事後指導の徹底</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期末における欠点保持者数は、全学年で67人であり、昨年度の96人、一昨年度の130人から大きく減少した。ICT活用による分かりやすい授業の工夫により成果として現れている。</li> </ul>
	資格取得 での学習 意欲高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアマイスター認定者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアマイスター認定者数の昨年度比増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアマイスター認定を目標とした資格取得に対する意識付け</li> <li>各科主導による資格取得指導の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期認定者数はゴールド18名、シルバー47名、ブロンズ53名の合計118名であり、合計は昨年より増加しているもののゴールドの人数が減少している。後期はゴールド23名、シルバー60名の計83名が申請中である。</li> </ul>

キャリア教育 (進路指導)	学校紹介就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校紹介就職希望者の進路実現に向けた学年・科・地域社会との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職採用試験一次応募での合格率90%以上</li> <li>学校紹介就職希望者の年内全員内定</li> <li>学校紹介就職者の県内就職率50%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路目標の早期確立を目指す生徒・保護者への継続的かつ適切な進路情報の提供</li> <li>地元企業の良さを生徒自身が直接知る機会を増やすなど、県内就職者の増加に繋げていく取組を強化</li> <li>社会人・職業人としての自立を促す5S活動や2A運動、ものづくり教育・グローバル教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一次応募での学校紹介就職合格率は95.0%（史上2位、昨年比+0.6p）となり、10月下旬までに100%就職内定という結果を得ることができた。</li> <li>県内就職を強く意識した指導を行ってきたが、県外大手企業の求人攻勢もあり、県内就職率は昨年より低い35%程度に留まった。ただし、県内企業求人において、技術職だけでなく事務職などへの求人職種の拡がりが見え、女子の県内就職率は60%を超えた。</li> </ul>
	公務員就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務員就職希望者の進路実現に向けた学年・科・官庁との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務員就職希望者の90%以上の最終合格率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的な出願・受験（特に技術職への応募）を促す個人面談や外部講師による講座等の計画的実施</li> <li>課外授業参加への環境づくりと生徒の実情に即したきめ細やかで丁寧な個別指導の充実</li> <li>生徒が安心して受験に臨むことができる出願手続きに関する指導体制の確立</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>何か一つでも公務員採用試験に最終合格した生徒は44人、受験者総数に対する合格率は84.6%、就職内定者は41人となり昨年を上回った。国家公務員の九州地区技術職や熊本市職員の学校事務職など、難易度の高い職種にも多数最終合格することができた。</li> <li>面接練習に積極的に取り組む生徒が増え、熊本市職員1次合格者10人中8人が最終合格するなど、高い割合で最終合格に繋げることができた。</li> </ul>
	進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学希望者の進路実現に向けた学年・科・上級学校との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学進学希望者の80%以上の合格率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の目標実現に必要な進学への意識を高め、自ら学習する姿勢を育む計画的なキャリア教育の推進</li> <li>生徒の能力を最大限に引き出す進学指導の強化と、課外や模試、進学プログラムへの参加促進</li> <li>面接指導はもとより、各科との連携による専門教科課外、小論文指導の強化・充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学の推薦入試Iでは7人中6人合格と高い合格率になった。徹底した小論文、面接、専門教科指導の成果である。一方、志望者数は減少傾向にあり、高校入学時からのアプローチの必要性を強く感じた。</li> <li>3年生1学期の課外で、高専編入の過去問演習を実施（昨年まではセンター試験対策）した。早い段階から入試レベルの問題に慣れることで、高専を受験しない生徒も目指すべきレベルを意識することができた。</li> </ul>

生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成	・出席率向上	<p>昨年度比</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻 30%減</li> <li>・欠席 30%減</li> <li>・皆勤、精勤者計85%達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝からの登校指導による声かけ指導を充実させ、担任、科、部活動顧問との連携強化</li> <li>・情報交換会による生徒の状況を把握し、早期対応に取組み改善に努めるまた、教育相談部、関係部署と連携して長欠者の減少を図る</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期は、1年生において学校不適應の生徒がいたため、欠席日数が2倍増加している。しかし、2学期をみると、昨年度より遅刻、欠席が1割減少している。</li> <li>・長欠者対して、早期の家庭訪問やカウンセリング等を実施している。改善が見られた生徒もいるが、進路変更をした生徒もいる。</li> </ul>
		・身なり（服装頭髪）の徹底	・服装違反数（登校指導）昨年度比30%減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校指導での服装指導と検査の充実</li> <li>・連携指導による徹底指導と意識の高揚</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装検査の違反数において、昨年度より10%減少した。</li> <li>・3年生の進路決定後に、気を緩める生徒が増えている。毎年、集会等で講話を実施しているが減少には至っていない。担任や科の連携強化が求められる。</li> </ul>
		・交通規則遵守	・事故、違反件数昨年度比50%減	・交通講話等をはじめとする交通教育の充実と現地（学校付近危険箇所等）での登下校指導の実施	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故件数は15%減少している。</li> <li>・学校周辺の交通安全指導に力を入れた成果が見られた。しかし、学校を離れた場所での交通モラルの徹底までには至っていない。</li> <li>・次年度は、交通ハザードマップを作成し、交通事故減少につながる取り組みを実施していく。</li> </ul>
		・規範意識高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別指導件数全校生徒数の1%以内</li> <li>・5S活動の実践</li> <li>・2A運動の徹底</li> <li>・情報モラルの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級・学年・科・部活動等様々な機会をとおしてし、愛校心を育み、主体性を発揮できる人材を育成する</li> <li>・スマホ、ケイタイ安全教室の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別指導件数は全校生徒数の1%以内である。</li> <li>・携帯電話の規定を守れない生徒もいる。校内で使用することを禁止しているが、昨年度と同等の指導件数である。</li> <li>・「熊工生としての品格」を促す指導を継続することが課題。</li> </ul>
		・防犯意識高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盗難被害件数昨年度比50%減</li> <li>・自転車二重ロック施錠率90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理能力向上に向けた継続的指導の実施。学校行事等においては、校内巡視など警備の充実を図る</li> <li>・毎月26日を二重ロックの日と定め、生徒会と連携しての声掛けの実施・点検を行う</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盗難被害は大幅に昨年度より大幅に減少している。</li> <li>・私物の管理ができていない生徒がおり、落とし物の件数は増加している。</li> <li>・2重ロック施錠率は60%程度である。継続した声掛けが必要。</li> </ul>

人権教育の推進	人権教育推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育推進委員会の充実</li> <li>・ LHRの充実</li> <li>・ 人権教育指導の共通意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7回の推進委員会の開催</li> <li>・ 綱領「友愛協調」に根ざした社会人に相応しい人権感覚の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「5S活動」、「友愛協調」精神の全職員での指導</li> <li>・ LHRにおける「情報モラル」、「身近な人権課題」の学習</li> <li>・ 「言わない・書かない・提出しない」の徹底</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進委員会については、各学期の人権教育LHR、人権教育講演会の前に実施を徹底し、7回行うことができた。</li> <li>・ 「情報モラル」については生徒指導部と協力し、また「身近な人権課題」については各学年のLHRで学習できた。</li> <li>・ 職員、生徒の共通認識のもとに十分指導ができた。</li> </ul>
	研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内、校外研修の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教職員の積極的な校外研修への参加</li> <li>・ 教職員の人権資質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校外研修では、研修の意義を伝え、できるだけ多くの選択肢を紹介し、参加を呼びかける</li> <li>・ 校外研修の書面による復講及び報告</li> <li>・ 「いじめ」の構造についてのさらなる理解</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内研修では、「いじめ」問題についてのワークシートを用いた実践交流をテーブル毎に、「いじめ」の未然防止及び早期発見のための討議を14グループに分けて実施し、各グループから発表してもらい意見共有を行った。16項目の研修を紹介し参加を呼びかけたが、昨年39.1%だった校外研修の参加希望率は36.3%に減少した。</li> <li>・ 概要と感想を代表者を書いてもらい、全職員に共有した。</li> <li>・ 「いじめ」の構造については、2回の校内研修で定義の確認と未然防止、早期発見についての討議の機会を持つことができた。また、防止委員会で問題を抱える生徒の情報を共有できた。</li> </ul>
	命を大切にすることを育む指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自他の生命を尊重する心の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員によるあらゆる教育活動での多角的なアプローチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科において授業内容との関連付け</li> <li>・ LHR、学年集会、全校集会等での実施</li> <li>・ 進路教育、人権教育、安全教育等との関連付け</li> <li>・ 5S活動への関連付け</li> <li>・ 外部講師による講演の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの教科で行ってもらった。</li> <li>・ 各学年を中心に実施してもらった。</li> <li>・ 各校務分掌と協力してできた。</li> <li>・ 各集会での機会ある毎に行うことができた。</li> <li>・ 講演を通じ、外国ルーツの子どもたちの増加、彼らが抱える学校での生活のしにくさを理解し、これからの社会の中で自分のできる支援の方法を自分の命は自分だけのものではないことを理解し、確認することができた。</li> </ul>

いじめ防止等	いじめ防止推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止対策委員会及び部会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に組織的に迅速に対応できる職場環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な実態調査、情報交換会からの早期発見、早期対応</li> <li>教師の気づき、生徒・保護者の通報、キッズサインへの迅速対応</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止対策委員会、情報交換会を合計年3回開催。実態調査の報告、学校カウンセラーからの御助言等もいただきながら意見交換を行った。</li> <li>各学年から出席状況や学校生活の様子、気になる生徒などについての情報交換を行い、未然防止や早期発見に繋がるよう取り組んだ。</li> <li>クラス経営が上手くいくための資料を、各担任に配付し説明した。</li> </ul>
	研修及び啓発の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題の認識、防止への意識高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題の共通理解と未然防止へ取組の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止月間を設け、LHR、講話等啓発活動の取組</li> <li>スクールサインの導入</li> <li>アンケートや感想文をととした定期的な実態調査</li> <li>教育相談、スクールカウンセリングの活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>熊工いじめ防止月間、学校生活アンケートの実施など年間をとおして計画的に取組を行った。</li> <li>情報交換会により早期発見・実態把握に努めるとともに、教育相談やスクールカウンセラーと連携して取り組めた。</li> </ul>
地域連携	防災型コミュニティ・スクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災型コミュニティ・スクールの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学期1回以上協議会を開催し、地域に根差した防災システムについて検討する</li> <li>地域の課題に即した避難所運営の在り方をさらに検討し、避難訓練等への反映を図る</li> <li>協議会が出した方向性を各部署、各機関と連携し実現・徹底を図る</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定していた学校運営協議会を中止にすることとなったが、町内会の集まりに参加したり、避難訓練の実施に向けた打ち合わせを進めたりすることで、徐々に地域との連携は深まっている。SPHで様々な取組を続ける中で、更に地域連携を目指した協議会を開催することには困難もあるが、次年度へ向けて準備を進めたい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>災害に適切に対応できる学校運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災マニュアルの活用と更新</li> <li>避難訓練の実施及び充実</li> <li>防災研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域及び学校の特性に合わせた防災マニュアルを作成し活用する。また、各項目について実践可能かどうかを見極め、来年度の更新に役立てる</li> <li>避難訓練、防災研修の内容を検討し、より現実に近い形の訓練を実施する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練については、地域の方々により段階的に実施中で、その様子について町内会長から報告を受けている。1月には学校の施設を使い、避難所開設から受け入れまでの訓練を実施した。本年度の訓練を踏まえ、来年度の訓練がさらに充実したものになるよう、自治会と協議をしていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害後のサポート体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポートの必要性の把握と対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心的サポートが必要な生徒の把握と適切な対応を図る。また、ハード面でのサポートが必要な施設の把握と適切な対応を図る。</li> <li>適切なサポートに向けて、さらに関係部署との協力を図る。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の心的サポートについては、教育相談部でアンケートを実施して把握に努め、心のケアの必要な生徒にはスクールカウンセラーによる面談を実施する。</li> <li>災害後の施設の被害については、各科から報告がされることになっており、避難所運営においては正確に把握する必要がある。関係部署との連携を日頃から深められるようにしたい。</li> </ul>	

工業教育	ものづくり教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくり教育を通して我が国や地域社会に貢献できる人材を育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業教育における知識や技能・技術の習得及び5S活動と2A運動の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習や座学の各授業での分かりやすい授業</li> <li>面白い授業による学習意欲の喚起、学力及び技術力の向上</li> <li>5S活動と2A運動を通した落ち着いた学習環境づくり、規範意識向上による「安全」と「環境」を考えた教育の実践</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>81.5%の生徒が授業は理解できていると答え、前年比+0.5Pであるが、とても分かりやすい授業と答えた生徒が87.1%で前年比-0.7p、授業により学習への興味関心意欲が向上したと答えた生徒が78.5%で前年比-0.6pであった。</li> <li>5S活動に伴う整理整頓や掃除ができていたと答えた生徒は前年比-0.2pであるが9割を超えている。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>各種コンテスト・競技大会等における全国大会出場を目指した取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国大会を意識した早めの準備と年間を通した計画的、継続的な指導</li> <li>熟練技能士を招いた実技研修会などによる指導者のスキルアップ</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりコンテスト県大会では、旋盤作業部門、木材加工部門で金賞の他、銀賞（電子回路部門）、銅賞（化学分析部門、測量部門、家具工芸部門）、九州大会では旋盤作業部門で2位だった。九州地区高校生溶接技術競技会は、県大会で個人の部優勝、九州大会出場。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>SPHやものづくりを通した地域貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPHや実習、課題研究、工業クラブ活動において地域に貢献できるテーマを实践</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPHでは、土木科による益城町災害公営住宅のブロック階段設置、社会福祉施設慈愛園の花壇作り、建築科による阿蘇神社楼門1/10模型製作、インテリア科による益城町災害公営住宅へのキャビネットやプロフィールボード、杵の製作および地元町内会への熊本地震アンケート調査を行い、住民、利用者の利便性、快適な空間作りに貢献した。また、課題研究、工業クラブでは、電気科は土木科と協働し、慈愛園の劣化・破損したコンセントの交換、繊維工業科は建築科と協働し、炭素繊維を用いた木製フレームの補強とその評価、材料技術科はインテリア科と協働し、廃棄植物を利用したバイオ固形燃料の試作、情報システム科はインテリア科・建築科と協働し、アプリケーションソフトを利用した防災マップの製作など、科の特性を生かし、地域に貢献できるテーマを实践した。</li> </ul>
	資格取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>更なる資格検定への挑戦を通して、生きる力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアマイスター顕彰者数全国トップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格検定試験の指導での担当者や資料、指導方法などの工夫と効率的な取組</li> <li>更なる上級検定試験へのチャレンジによるジュニアマイスター認定者の増加と即戦力となる人材の育成</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各工業科がものづくりマイスターの派遣、熟練技能士の招へい、目指せマイスター事業の利用等積極的に資格取得の指導に取組み、生徒だけでなく指導者のスキルアップにも繋がっている。また、各工業科とも時代のニーズにあった資格取得に移行している。</li> <li>前期認定者数はゴールド18名、シルバー47名、ブロンズ53名の合計118名であり、合計は昨年より増加しているもののゴールドの人数が減少している。後期はゴールド23名、シルバー60名の計83名が申請中である。</li> </ul>

部活動	部活動の充実による学校活性化	・人間性の育成	・あいさつなどの礼儀、責任感や協調性などの態度、環境美化などに取り組む奉仕の心の育成	・競技成績の向上と社会で通用する人間性育成の両立 ・さらなる挑戦を各顧問が意識し、人間性の育成を顧問間で共通理解し指導する	B	・挨拶、礼儀については、これまでと変わらず概ね良好である。環境美化に対する自主性や積極性については、やや物足りなさを感じることもある。
		・競技成績向上	・全国大会への個人・団体の出場数の増加	・『全国制覇』を共通の目標とし、各々が切磋琢磨することによる競技力の向上	A	・全国大会には、運動部の団体競技でソフトボール、野球、ラグビー、女子ソフトテニスが出場した。個人競技では陸上競技、テニス、男子ソフトテニスが出場した。文化部では、吹奏楽、マイコン部が出場した。
		・事故防止	・重大事故の防止 ・怪我件数の減少	・5 S 活動の浸透、日常の整理整頓と道具管理の徹底 ・顧問や部員に対し安全面の意識づけの徹底	B	・「5 S 活動」を中心とした安全面については、学校の重点目標であり、意識した取り組みがなされていると感じる。
保健安全管理	保健管理	心身の管理	・健康診断の徹底により、指導を要する生徒の把握 ・特別に支援の必要な生徒を把握 ・感染症の蔓延を防止	・事後措置の徹底、該当生徒への治療勧告書発行による全員実施 ・生徒指導部、教育相談部等との連携による内容の把握と早期対応 ・必要に応じたスクールカウンセラー及び専門医等との連携 ・教務支援システム及び健康観察表による出席停止等の状況把握 ・全国、県下での感染症発生状況の情報提供 ・疑似者を早期把握し、予防のための環境整備	B	・未受検者には、他学年の実施日に受検機会を設けるなどの対応で、完全実施することができた。 また、要配慮者については、関係職員・部署と連携をとることができた。 ・毎日の出席状況を把握することにより、担任・科と連携をとり、必要に応じてカウンセリングの設定や保護者対応に繋げることができた。 ・感染症に関しては、感染性胃腸炎他の報告が年間をとおして若干あった。インフルエンザに関しては、学級閉鎖はなかった。
			安全管理	・安全な学校環境衛生の確保	・安全点検の実施 ・衛生検査の実施	・各学期1回、校内安全点検の実施 ・学校薬剤師と連携し、諸検査の実施と事後措置を徹底
	・危機管理	・事故防止及び緊急時の連絡体制を周知徹底		・体育的行事等での事故防止 ・部活動顧問等との連携(安全管理と安全教育的の徹底) ・アレルギー疾患生徒の把握とアナフィラキシー発現時の対応についての職員への周知徹底	B	・体育的行事や活動において、大きな事故の発生はなかった。 ・部活動においても顧問会を定期的に行き、職員間の連携を深められた。 ・資料を配布し、全職員への周知徹底に努め、本年度赴任した職員に対し AED 実技研修を実施した。

#### 4 学校関係者評価

本年度も学校評議員に20項目について4段階の評価をお願いした。昨年同様全ての項目で肯定的な結果となったが、低めの評価となった項目もあった。

##### (1) 評価された点

- ・学校の方針が明確で、落ち着いた学校生活がおくれている。特に就職や進学の見込みについては、学校の取組が伝わり全てがよい方向に進んでいる。
- ・生徒が熊工生であることにプライドを持っている。これは先生方の熱心な指導の成果であると評価できる。学校は「生徒が魅力を感じる」ことが最も大切であるとする。

##### (2) 課題として指摘された点

- ・教育上むずかしいかもしれないが、熊工として将来を見据えた継続的で、挑戦的な取組があってもよいと感じる。
- ・校長を中心に意欲的な様々な取組が行われ、県内ばかりでなく全国の工業系高校を牽引している。その分、職員の負担も大きくなっているのではないかと思う。「学校は生徒たちのためにある」ということを大切にしていきたい。
- ・「教育に必要な施設・設備は整っている」「学校の教育活動を地域に伝えている」「生徒は社会で通用するルールや交通ルールを遵守している」等の項目で、低めの評価をする学校評議員もおられた。

#### 5 総合評価

運営委員による学校自己評価（本総括表の3）では、B評価以上の評価は全評価項目の94%であった。昨年度は91%であり、いくらか改善することができた。一方で、昨年度より評価のさがった項目が6項目（A評価がB評価となった項目が4項目、B評価がC評価となった項目が2項目）あり、次年度へ向けて課題も見えてきた。昨年度C評価が目立った生徒指導面は、全項目がB評価となったが、本年度も課題が残った。

保護者アンケートでは、「評価できる」が平成30年度に比べて減少している項目が目立つ結果となった。次年度に向けて検討が必要である。「本校は誇れる伝統・校風・特色づくりに努力していると思いますか。(4.6%減)」「本校は保護者とのコミュニケーションを大切にしていると思いますか。(4.4%減)」「本校の生活規律については、人を育てる視点に立っており、その指導方針に共感できますか。(6.1%減)」「本校は人権を尊重する心など豊かな心を育て、いじめのない学校づくりに努力していると思いますか。(6.5%減)」「本校は社会で通用する規範意識やモラルの指導育成をおこなっていると思いますか。(5.9%減)」「本校は保護者や地域社会に信頼されていると思いますか。(5.3%減)」

職員アンケートでは、全29の評価項目の内、昨年度に比べて「そう思う」の回答が減少傾向にある。昨年は、ICT機器の全ホームルーム設置に伴い授業改善に向けた取組は大きくポイントが上がっていたが、本年度は減少する結果となった。また、学校行事への協力や不登校いじめ等への対応についても、大きく評価が下がってしまった。職員の意識を高め、更なる取組が必要である。

6 次年度への課題・改善方策	
【課題】	【改善策】
①学校目標の保護者に対する周知徹底 ②出席率の向上、生徒支援 ③交通事故の防止、交通ルールの遵守 ④防災型コミュニティ・スクールにおける連携の強化 ⑤5 S 活動と 2 A 運動の徹底	①運営委員会及び各科主任連絡会にて取組の徹底、保護者総会での周知、保護者役員会との連携 ②担任や科、部活動顧問など組織全体での声かけと早期指導の充実、教育相談部との連携や情報共有、手厚い支援 ③生徒指導部を中心とし、全校集会等の機会あるごとに交通安全教育を徹底する。交通マナーの悪さが事故につながることを理解させる。命を大切にする心を養う。 ④地域や関係部署との連携を密にし、それぞれの部署の現状をしっかりと把握し連携を図ることで、足並みの揃った体制づくりを推進する。 ⑤大きな声での挨拶を徹底、さらに、朝の時間に実施する読書及び英会話、清掃活動の徹底を図る。